

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第1区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公表番号】特表2001-501458(P2001-501458A)

【公表日】平成13年2月6日(2001.2.6)

【出願番号】特願平10-510126

【国際特許分類第7版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 K 38/22

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 14/52

【F I】

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 P 35/00

C 0 7 K 14/52

A 6 1 K 37/24

【手続補正書】

【提出日】平成16年8月12日(2004.8.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年8月12日

特許庁長官 小 川 洋 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第510126号

2. 補正をする者

名称 アメリカ合衆国

3. 代 理 人

住所 〒105-8423 東京都港区虎ノ門三丁目5番1号 虎ノ門37森ビル

青和特許法律事務所 電話 03-5470-1900

氏名 弁理士(7751)石田 敬



4. 補正により増加する請求項の数 4

5. 補正対象書類名

請求の範囲

6. 補正対象項目名

請求の範囲

7. 補正の内容

請求の範囲を別紙の通り補正する。

8. 添付書類の目録

請求の範囲

1通



請求の範囲

1. 細胞マス又は多細胞生体の所定の独立領域における注目の遺伝子の発現の場所的及び時期的制御のための方法であって：

熱誘導性プロモーターに作用可能式に連結された遺伝子操作された注目の遺伝子を含む細胞を含んでいる細胞マス又は多細胞生体の所定の独立領域を選択的に加熱し、

かくして選択的に加熱された前記細胞における前記注目の遺伝子の発現を誘導する、

ことを含んで成る方法。

2. 前記熱誘導性プロモーターがヒートショック遺伝子プロモーターである、請求項1記載の方法。

3. 前記ヒートショック遺伝子プロモーターがヒトhsp70Bプロモーターである、請求項2記載の方法。

4. 前記細胞マス又は多細胞生体の選定領域を超音波により加熱する、請求項1記載の方法。

5. 前記注目の遺伝子が毒性分子又はプロ分子をコードする遺伝子の群から選ばれる、請求項1記載の方法。

6. 前記注目の遺伝子がLacZ、クロラムフェニコールアセチルトランスフェラーゼ、シトシンデアミナーゼ、インターロイキン1～10、血管内皮細胞増殖因子(VEGF)、繊維芽細胞増殖因子(FGF)及び血小板由来増殖因子(PDGF)から成る群より選ばれる、請求項1記載の方法。

7. 前記細胞マスが腫瘍の一部である、請求項1記載の方法。

8. 前記腫瘍が前立腺癌、グリオーマ癌、卵巣癌及び乳癌から成る群より選ばれる、請求項7記載の方法。

9. 動物の選定の細胞に治療タンパク質を供与する方法であって、下記の工程：

治療タンパク質をコードする配列に作用可能式に連結され、且つその配列の調節コントロールを及ぼすヒートショックプロモーター配列を有するDNA分子を動物の細胞の中に導入する、そして

集束超音波の適用を介して前記ヒートショックプロモーター配列を活性化させ、当該DNA セグメントが治療的に有効な量の前記治療タンパク質を発現するようにさせる；

を含んで成る方法。

10. 動物の選定の細胞に治療タンパク質を供与する方法であって、下記の工程：

治療タンパク質をコードする配列に作用可能式に連結され、且つその配列の調節コントロールを及ぼすヒートショックプロモーター配列を有するDNA 分子を動物の細胞の中に導入する、そして

電磁線の適用を介して前記ヒートショックプロモーター配列を活性化させ、当該DNA セグメントが治療的に有効な量の前記治療タンパク質を発現するようにさせる；

を含んで成る方法。

11. 前記細胞マス又は多細胞生体の選定領域を電磁線により加熱する、請求項1記載の方法。

12. 前記電磁線がX線、マイクロ波 (MW)、赤外線 (IR)、紫外線 (UV) 又は無線周波電磁線から成る群から選ばれる、請求項11記載の方法。

13. 前記選定領域の温度を磁気共鳴イメージングによりモニターし、そして前記加熱を当該モニターに従って調節する、請求項4記載の方法。